

1. 市町村等の概要	
① 都道府県名	青森県
② 市区町村名	むつ市
③ 人口	60,689人（平成27年12月31日現在：住民基本台帳）
④ 面積	913.70km ²
⑤ 市の特色	<p>むつ市は、本州最北端の下北半島に位置しており、恐山山系の外輪山を形成する釜臥山を中心として、東部は比較的なだらかな地形が広がり、北部および西部は山地や台地が海岸近くまで迫る山岳地形となっている。</p> <p>気候は、四季がはっきりとしており、夏季は短く温暖で湿度が低いことから比較的過ごしやすくなっているが、冬期は降雪期間が長く、最大積雪が山間部で1m以上、平野部及び海岸部では約70cmに達するなど、厳しい気象条件となる。</p> <p>一方、むつ市は広範にわたる地域が下北半島国立公園に指定されており、「恐山」「川内川溪流」などの景勝地や、「湯野川温泉」「薬研温泉」などの温泉が点在するなど、豊かな自然の恵みを受けた地域となっている。</p>
2. 市内の河川の概要	
① 主な河川	<p>・田名部川（二級河川田名部川水系）</p> <p>下北郡東通村朝比奈平に源を発し、途中目名川等の支川をあわせて、東通村とむつ市の水田地帯を貫流し、むつ市街地を経て陸奥湾に注ぐ、流域面積152.6km²、幹川流路延長26.7kmの二級河川である。流域は下北郡東通村とむつ市の1市1村から構成されており、下北地方における社会、経済、文化の基盤をなしている。</p> <p>河口から約3kmの地点で分流している新田名部川は、昭和30年の洪水を契機に市街地を迂回する放水路として計画され、昭和47年度までに築堤、昭和49年度に潮止堰、昭和52年度に分水門が完成したものである。</p>
② 河川と市区町村との関わり	<p>田名部川の舟運は、江戸時代から物資輸送の要路として利用されていた。西廻り航路など海上輸送によって大湊港に輸送された物資は、港からカンコ舟と呼ばれる川船によって田名部川を上り、田名部大橋の手前にある「田名部橋前」と呼ばれる船着場へ運ばれ、そこで陸揚げされた物資は、陸路で大畑、野辺地など周辺村々に運ばれていた。田名部は港ではなかったが、代官所所在地であり、田名部川の舟運の便があったことから、廻船問屋が置かれていた。明治時代に入り、海上交通の主流が和船から汽船へ移行される頃まで、田名部川の舟運が活用されていたとされている。</p> <p>東通村の目名や石持などで伐採された丸太や薪を田名部川に流し、迎町の土場へ運んでいたとされている。田名部の農家では、川に近い水田で作られた稲や稗を川舟で運搬しており、戦前まではそのための家々の船着場が多く設けられていた。</p>
③ これまで実施済みの関連施策	<p>・地方特定河川等環境整備事業（県単事業）（二級河川田名部川水系田名部川、H5～H8）</p> <p>田名部川下北橋～大瀬橋の約1.3km区間において、管理用通路の舗装（右岸：インターロッキング舗装、左岸：ゴムチップ舗装）やトイレや緑地スペースの整備、管理用通路に沿った植樹などを行った。</p>
④ 市民の河川利活用状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成5年頃より大瀬橋から下流の沿川で管理用通路やトイレ、休憩施設などが整備され、日常的に散策やジョギングなどに利用されている。 大橋上流から明神川合流点にかけては、水際にデッキが整備されており、10～20年前までは灯ろう流しなどのイベントが行われていた。 新田名部川は、平成11年から毎年行われている一般市民参加型のボートレース「まさかりレガッタ」の開催会場となっているほか、周辺にある学校のボート部の練習場所として使用されている。また、平成21年に日本ボート協会よりボートコースとしてC級の認定を受け、県内唯一のボート競技会場として、高等学校の東北地区大会や県大会などが行われている。 太田橋から赤坂橋の区間では、平成6年頃より「やすらぎの水辺空間整備事業」（県単事業）として、親水護岸の整備とトイレ、休憩施設の整備、桜の植樹等が行われており、散策やジョギングなどに利用されている。

<様式3>

水辺とまちづくりに関する基本方針

むつ市のまちづくりを総合的、計画的に推進する計画として、平成19年に策定された「むつ市長期総合計画」があり、都市計画の基本的な方針を示す「むつ市都市計画マスタープラン」が平成22年に策定されている。

■むつ市長期総合計画（平成19年）

【市の将来像】人と自然が輝くやすらぎと活力の大地 陸奥の国

【基本方針】

- ・ 地域の個性を活かした特色あるまちづくり ← **水辺環境の保全**
- ・ 市民参加による一体的な新しいまちづくり
- ・ 人が生き生きし安心して暮らせるまちづくり

■むつ市都市計画マスタープラン（平成22年）

【都市の将来像】

生活・産業・エネルギー・自然が共に生きる大地 下北広域圏をけん引する 陸奥の国づくり

【都市づくりの目標】

- ・ 生活：誰もが安心して暮らせる住みよい都市づくりを目指す
- ・ 産業・エネルギー：むつ市の産業が進む道を支援する産業基盤づくりを目指す
- ・ 自然：豊かな自然を子孫に残す、自然環境の保全・維持を目指す
- ・ 大地：下北広域圏の中心拠点となるネットワーク型都市構造の形成を目指す

<都市施設整備の方針>

「市街地を流れる河川」

- ・ 河川や水路の持つ既存の治水機能の維持に努めます。
- ・ 市街地内を流れる河川は総合的な治水対策に配慮しながら、改修時には親水機能を有した緑地を配置するなど、市街地にうるおいを与える空間、景観の創出に努めます。

【地域別構想】

<都市施設の方針>

河川・下水道：魚や野鳥が息できるような河川整備や、住民が自然とふれあうことのできる親水空間の創出を目指します。

<地域環境形成の方針>

自然環境：田名部川沿いの景観の維持、魅力の向上を目指します。

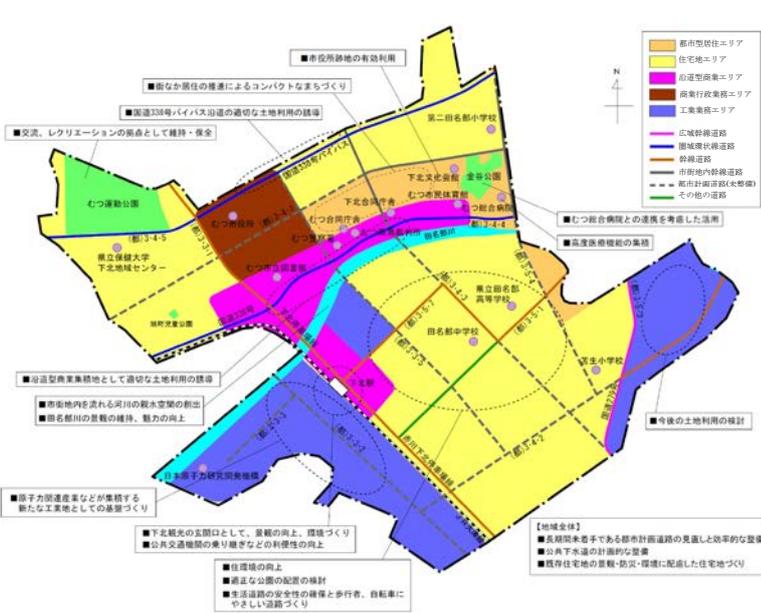


図 地域づくり方針図(むつ中央下北地区)



図 地域づくり方針図(むつ田名部地区)

■田名部川水辺のまちづくりプラン

○基本コンセプト

『田名部の「自然」「歴史」「まち」「かわ」を結ぶことで
ふるさとの新たな魅力を生み出しみんなの心と体の健康を育み
笑顔をつくるかわまちづくり』

○基本方針

- 「まち」に点在する田名部神社をはじめとする神社仏閣、公園・緑地や地域の交流の場と「かわ」とのネットワークを構築することで、新たな賑わいの場を創出し、地域の結びつきを強くする。
- 釜臥山など自然豊かな景観を楽しみながら、川沿いを散策し、心と体の健康増進を図る。
- ジョギングやレガッタなど、水面及び河川沿いをスポーツで活用することで交流の場を創出し、地域の活気を生み出す。
- 田名部川の自然環境を活かし、水辺とふれあえる、地域住民が安らげる憩いの場を創出する。

○ゾーニング計画

●心と体の健康増進ゾーン

：釜臥山の雄大な姿を眺めながら散策を楽しみ、水辺とふれあい、心と体の健康増進を図る空間

(ゾーンの概要・計画理由)

田名部川の下北橋から大瀬橋までの区間は、むつ市を象徴する山である釜臥山を一望でき、日常的に散策や、ジョギングなどの利用が見られる区間である。また付近の中学校では、例年、写生大会が行われていることから、「心と体の健康増進ゾーン」として計画した。

●田名部の歴史・文化と交流ゾーン

：田名部の歴史と文化を学び、子供からお年寄りまでみんなが集い楽しむ空間

(ゾーンの概要・計画理由)

田名部川の大瀬橋から旧鉄道橋までの区間は、田名部神社等の神社仏閣が集積している区間であり、下北半島最大の祭りである田名部神社例大祭（田名部まつり）が開催されている。祭り期間中は、5 台の山車が田名部神社を中心に練り歩き、また田名部川沿いには出店が立ち並び県内外からの観光客を楽しませている。また、周辺にはむつ下北観光物産館やイベント広場があり、音楽のライブイベントやフリーマーケット等、地域住民の交流が盛んな区間であるため、「田名部の歴史・文化と交流ゾーン」として計画した。

●自然との共生ゾーン

：田名部川周辺に残された自然環境とふれあう心と体の安らぎ空間

(ゾーンの概要・計画理由)

田名部川の下北鉄道橋から新田名部川分流点までの区間は、河川沿いの樹木や背後地の田園など自然環境が多く残されている区間であることから、「自然との共生ゾーン」として計画した。

●新田名部川スポーツ交流ゾーン

：ジョギングやレガッタなど、スポーツを通して地域の交流を楽しむ空間

(ゾーンの概要・計画理由)

新田名部川は、昭和 30 年の洪水が契機に市街地を迂回する放水路として計画され、昭和 52 年に完成された放水路である。新田名部川の海老川橋から赤坂橋までの区間は、川幅が一定で線形も直線と緩やかな曲線からなっていることや、河口の下北湾に近く、流量・流速が安定していることなどから、ボート競技が盛んに行われるようになり、平成 11 年から毎年行われている一般市民参加型のボートレース「まさかりレガッタ」や、周辺にある学校のボート部の練習などに利用され、川に親しみながらスポーツが行われている。また、兩岸の管理用道路も整備され、散策やジョギングなどの利用も多いことから、当該区間を「新田名部川スポーツ交流ゾーン」として計画した。

① 心と体の健康増進ゾーン



釜臥山の眺望



散歩・ランニング

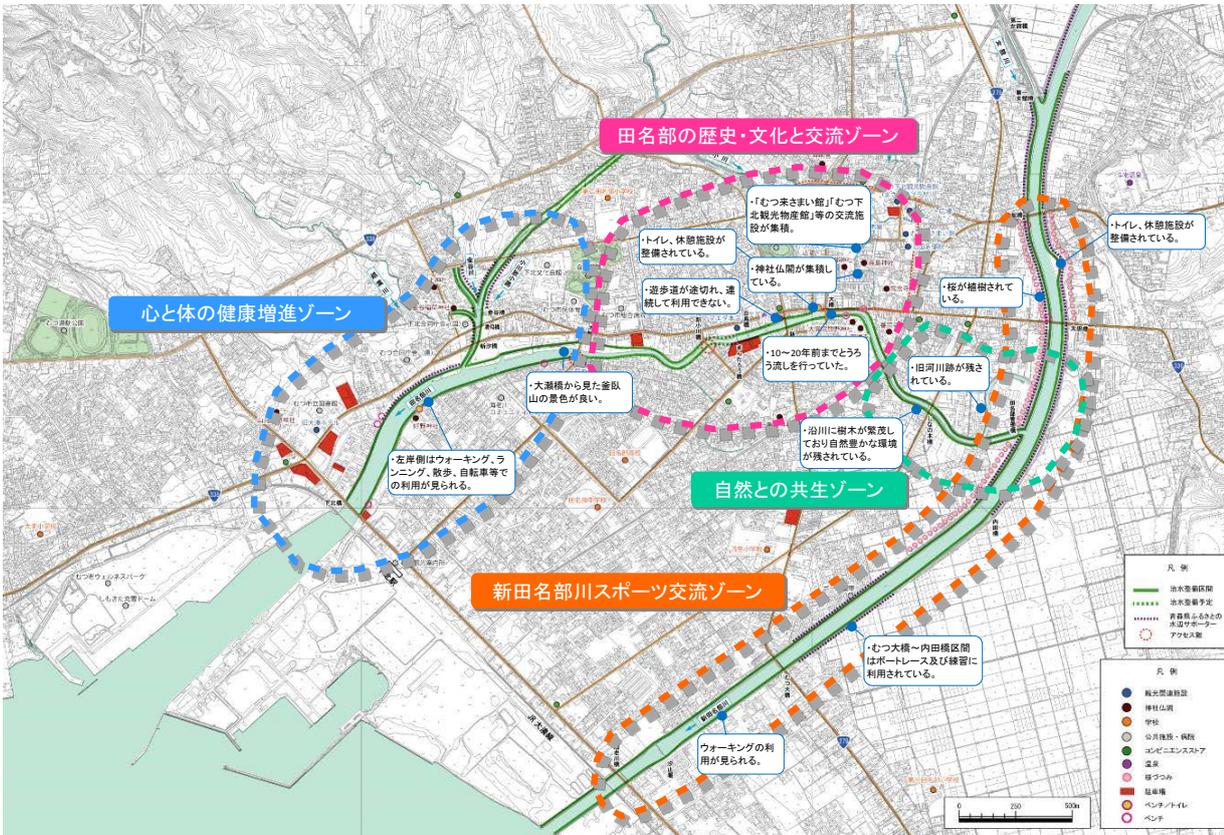
② 田名部の歴史・文化と交流ゾーン



むつ来さいまい館



田名部神社



③ 自然との共生ゾーン



緑が茂る河岸の状況



緑が茂る河岸の状況

④ 新田名部川スポーツ交流ゾーン

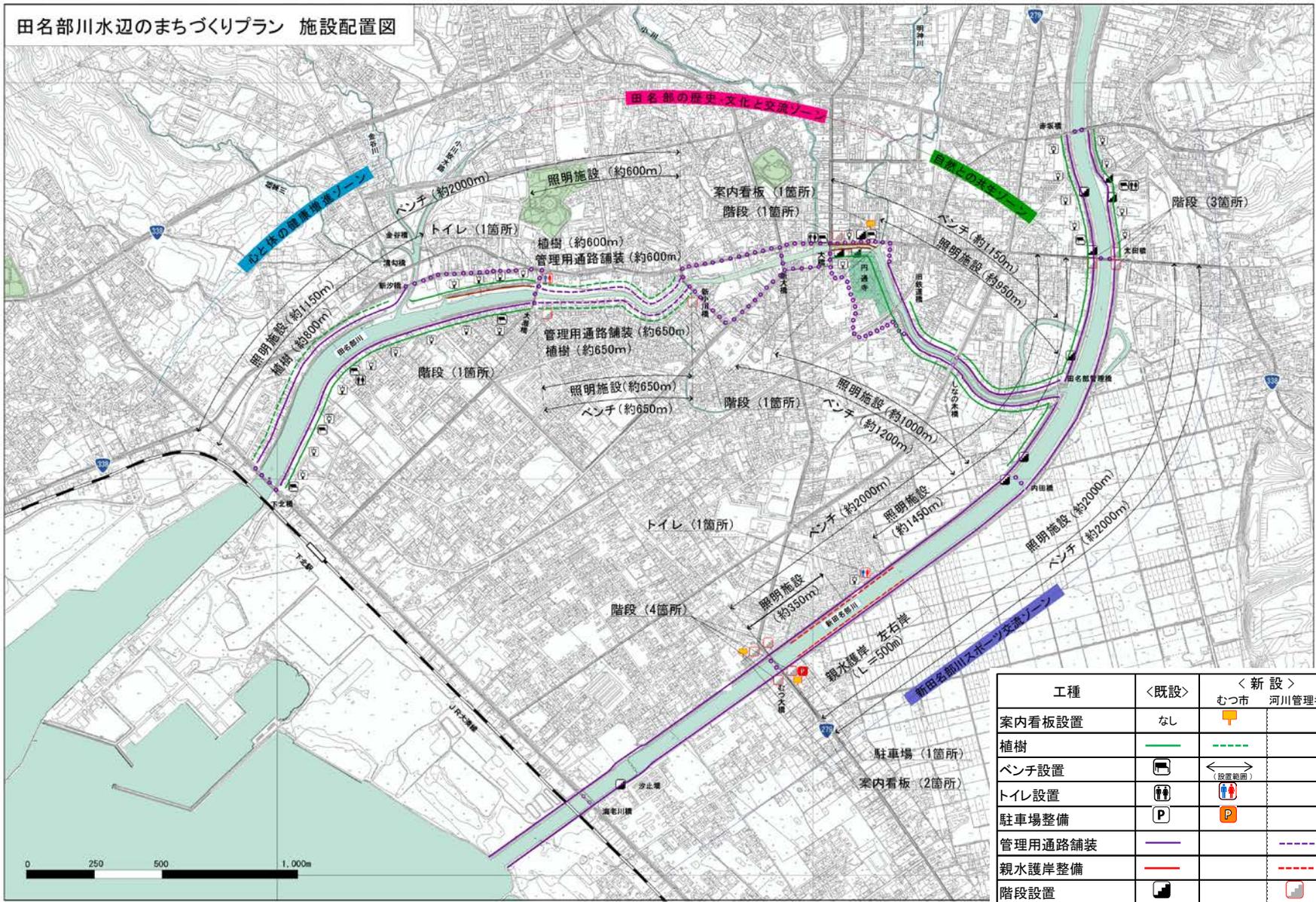


桜づつみ (太田橋)



まさかりレガッタの状況

田名部川水辺のまちづくりプラン 施設配置図



0 250 500 1,000m

工種	＜既設＞	＜新設＞	
		むつ市	河川管理者
案内看板設置	なし	↑	
植樹	—	---	
ベンチ設置	☺	↔	
トイレ設置	♂	♂	
駐車場整備	P	P	
管理用通路舗装	—	---	
親水護岸整備	—	---	
階段設置	☒	☒	
照明施設設置	💡	↔	

○: 散策ルート

1. 河川名

① 田名部川水系田名部川

2. 施策の実施範囲

田名部川（下北橋～田名部川分流点）、新田名部川（河口～赤坂橋）

3. 施策概要

① 田名部川、新田名部川

日常的な散歩やジョギングなどの利用とともに、現在実施されている、まさかりレガッタ、さけの稚魚の放流や田名部まつりを継続し、さらに市街地で行われているマルシェなどのイベントや、ウォーキング大会を田名部川沿いで実施し、水辺交流空間として、水辺の賑わいを創出する。

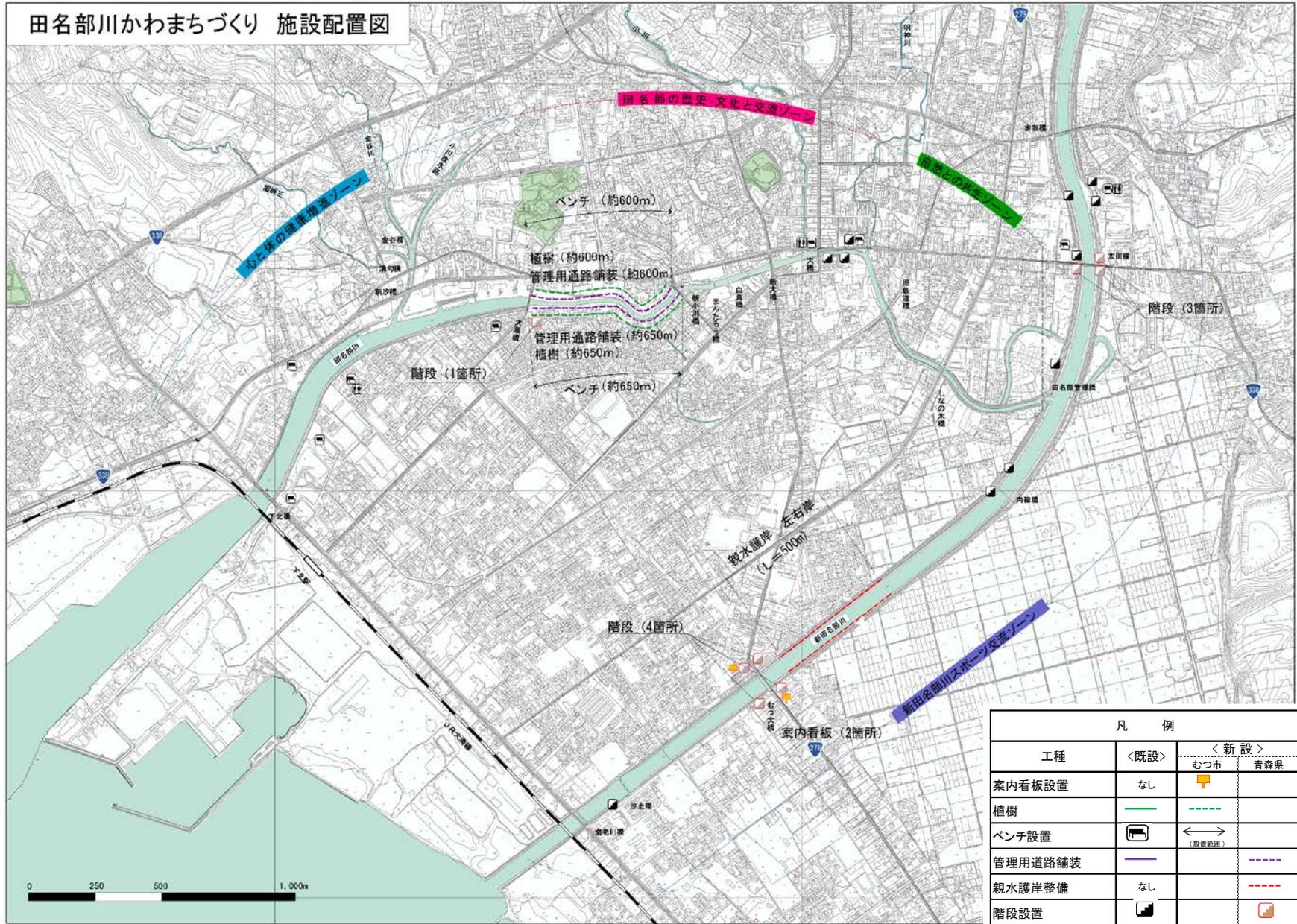
(参考) 位置図



支援整備内容の概要（ハード施策）

1. 河川名
① 田名部川水系田名部川
2. 整備範囲
① 田名部川（下北橋～田名部川分流点）、新田名部川（河口～赤坂橋）
3. 整備内容
<p>田名部川かわまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none">・舗装等の管理用通路及び階段を整備し、川沿いを周遊するネットワークを構築する。・川沿いに植樹、ベンチ設置を行い、釜臥山など自然豊かな景観を楽しみながら、散策やジョギングなどができる環境づくりを行う。・階段式の親水護岸を整備し、ボート等からの安全な乗降場所を確保するとともに、イベント時に観覧場として利用することで、地域交流の場の創出を図る。 <p>（むつ市）：案内看板設置、植樹、ベンチ設置</p> <p>（青森県）：管理用通路舗装、親水護岸整備、階段設置</p>
<p>位置図</p> 
<p>※施設配置図は次ページのとおり</p>

田名部川かわまちづくり 施設配置図



工種	凡 例			
	<既設>	<新設>		
案内看板設置	なし	<table border="1"> <tr> <td>むつ市</td> <td>青森県</td> </tr> </table>	むつ市	青森県
むつ市	青森県			
植樹	—	- - - -		
ベンチ設置	☺	↔ (設置範囲)		
管理用道路舗装	—	- - - -		
親水護岸整備	なし	- - - -		
階段設置	📏	📏		

ハード施策の個別整備計画書

1. 整備内容名

田名部川かわまちづくり

2. 整備概要

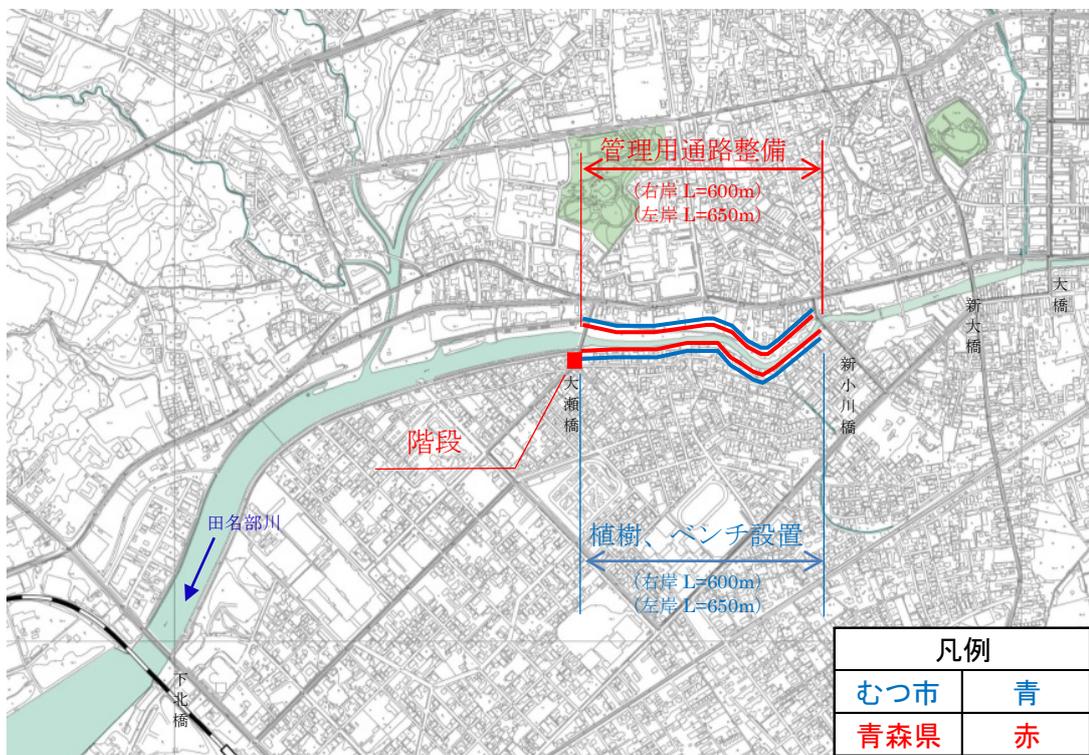
<むつ市>

- ・田名部川の大瀬橋から新小川橋の植樹・ベンチの未設置区間について植樹・ベンチ設置を実施する。
- ・新田名部川のむつ大橋付近に散策ルート等を案内する看板を設置する。

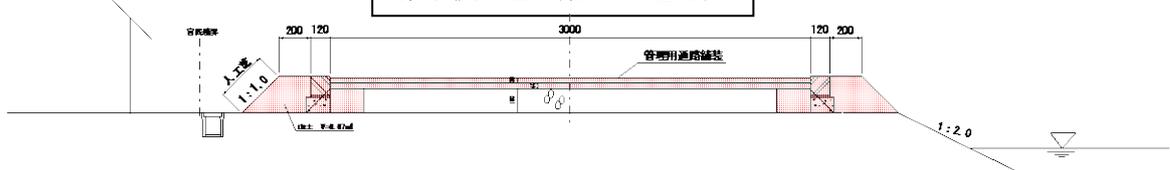
<青森県>

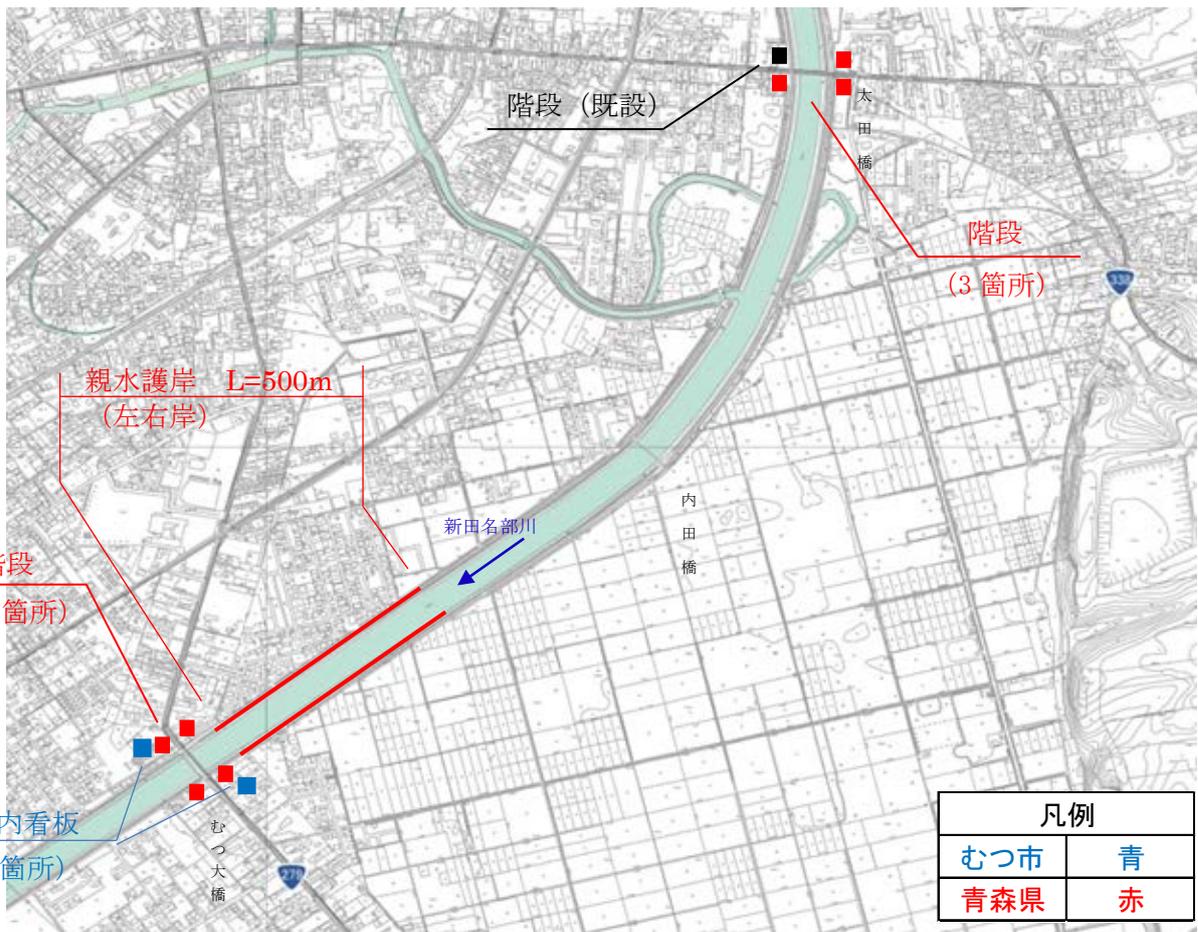
- ・大瀬橋から新小川橋の管理用通路を整備し、大瀬橋の左岸に階段工を設置する。
- ・新田名部川のむつ大橋から内田橋間にある新田名部ポートコース区間において親水護岸を整備し、むつ大橋及び太田橋の兩岸に階段工を設置する。

・整備箇所（位置図）

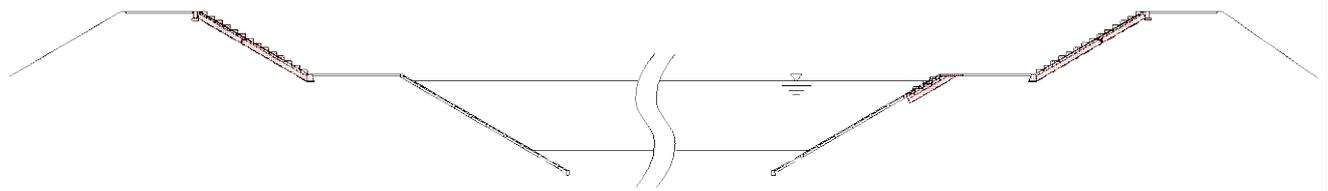


標準横断面図（管理用通路）





標準横断面図 (親水護岸)



3. 整備の必要性、有効性

田名部川では、平成8年度までに実施した大瀬橋から下流域での河川改修事業に伴い、両岸に管理用通路が整備され、その後順次、街路灯やトイレ等が設置され、沿川の住民をはじめ多くの市民が散策やジョギングなどを楽しんでいる。新田名部川では、一般市民参加型のボートレース大会「まさかりレガッタ」の開催場所になっているほか、付近にある学校のボート部の練習場所となっている。また、県内唯一の漕艇競技が可能なボートコースとして、高等学校の東北地区大会や県大会などの会場となっているなど、水面利用も活発に行われており、ボートコースの利用者や観覧客は近年、増加傾向にある。

一方で、田名部川の管理用通路は不連続で未舗装区間が残っており、ほとんど利用されていない区間があるなど、周遊性に劣っており、田名部川沿いに点在する神社仏閣、イベント広場などの拠点と川とのつながりがほとんどない等の課題があり、周遊性向上が期待されている。

また、ボートコース会場に利用されている新田名部川のむつ大橋上流では、レースの観覧場所が限定されている等の課題があり、利便性向上が期待されている。

田名部川や新田名部川を周遊できる管理用通路や川沿いの植樹、ベンチ、親水護岸などの整備を行うことで、「田名部川かわまちづくりワークショップ」で検討した基本コンセプトでもある、田名部川の「自然」、「歴史」、「まち」、「かわ」を結び、新たな魅力を創出し心と体の健康を育み笑顔をつくるかわまちづくりを実現し、これまで以上に川沿いの散策やジョギングなどを楽しめるようになり、田名部まつりやまさかりレガッタなどのイベントの際には、歴史や文化に親しみ、水辺とふれあうことで、地域の交流を活性化し、同時に安らぎを与えることができる。

なお、河川管理の観点においても、連続した管理用通路や親水護岸等の整備により、迅速な河川パトロール・緊急対策が可能となり、さらに地域の利用者の安全確保も図られる。

4. 整備の実現方策

整備区間については、管理用通路の舗装、親水護岸、ベンチなどの整備が計画されている。

これらを整備することにより、地域住民の健康増進や交流の場として利活用できる魅力的な水辺等環境空間の創出を図ることができる。

・整備工程

事業	H29	H30	H31	H32	H33
事業主体:むつ市					
案内看板設置					
植樹					
ベンチ設置					
事業主体:青森県					
管理用通路舗装					
親水護岸整備					
階段設置					

5. 推進体制

- 平成25、26年度、地域住民、自治体、関係団体等で構成する「田名部川かわまちづくりワークショップ」を開催し、田名部川の整備方針、整備内容について検討を行い、地域の意向を整備計画に反映してきている。今後の整備にあたっては、当ワークショップを母体として、地域で一体となった体制で推進する。

6. 有効利用および維持管理

①有効利用に関する計画

- ・ 田名部川および新田名部川で川沿いを周遊できる管理用通路を整備するとともに、自治体や市民団体と連携したウォーキング大会、ランニング大会等を開催し、スポーツを通じた地域の交流と地域住民の健康増進に寄与する。
- ・ 明神川合流部の広場や水辺デッキを利用して、地元の「田名部七福通り商店街」や市民団体とも連携したイベントを開催し、地域交流や賑わいの空間創出に寄与する。

②維持管理計画

- ・ 除草、ゴミ拾いなどについては、ふるさとの水辺サポーター制度で登録されている団体や企業に継続して協力をお願いするとともに、かわまちづくり事業において新たに整備する区間については、サポーターに向けた働きかけを行う。
- ・ その他、地域住民の方々にご協力頂き、地域の利用者を主体とした除草、ゴミ拾い等を定期的に実施していく。
- ・ 管理用通路の舗装、親水護岸、ベンチ等のかわまちづくり事業において整備をした施設については、事業者（県、市）が維持・管理・補修・メンテナンスを実施する。

●河川管理者（県）

- ・ 河川管理施設の維持・管理、河川の巡視・点検など

●むつ市

- ・ 市で施工した各種河川関連施設（植樹、ベンチなど）の維持・管理

●水辺サポーター、地域住民

- ・ 除草、ごみ拾い、軽微な管理など

7. 特徴

むつ市は、舟運の要路であった田名部川を中心に、下北地方の社会・経済・文化の中心都市として栄えてきた。

現在の田名部川は、散策やジョギング、レガッタなど健康増進及びスポーツ目的で利用され、市街地にうるおいと安らぎを与える貴重な水辺空間として、むつ市にとって重要な河川となっている。

しかしながら、時代の流れとともに、かつての舟運の時代が終わり、「かわ」は「かわ」、「まち」は「まち」と、個々の役割で分断され、「かわ」と「まち」とのつながりが薄れつつある。

そこで、むつ市のまちづくりと田名部川のかわづくりが一体となった「かわまちづくり」により、田名部川らしさを活かした水辺空間を創出し、「かわ」と「まち」との関連性を高め、地域の活性化を図りたい。

■田名部川かわまちづくり懇談会

平成 25 年 12 月、平成 26 年 2 月、7 月において、地域住民、むつ市、関係団体等による「田名部川かわまちづくりワークショップ」が開催され、田名部川かわまちづくりの実現に向けて、地元主体で整備計画の検討を行っている。



田名部川かわまちづくりワークショップの様子

■まさかりレガッタ

新田名部川では、平成 11 年から毎年 7 月に市民参加型のボート競技である「まさかりレガッタ」が開催され、ボート競技経験者から初心者までそれぞれが参加できる 7 つの部門のレースが行われている。平成 28 年は、70 クルー、約 500 人が参加した。選手の家族や友人はコース沿いにテントを張り、観覧を楽しんでいる。



まさかりレガッタの様子

■ふるさとの水辺サポーター

青森県では、平成 19 年度に「ふるさとの水辺サポーター制度」が制定されており、住民や企業等の団体が、県が管理する河川等の一定区間の水辺サポーターとなり、清掃や除草などのボランティア活動を行っている。平成 27 年 10 月現在で約 90 団体が参加しており、そのうち、田名部川・新田名部川では 8 団体が参加している。



ふるさとの水辺サポーターの活動状況

<参考1>

位置図、写真等



<参考2>

市町村内で実施された同種の河川整備事業

1. 河川名
田名部川水系田名部川
2. 整備範囲
田名部川 太田橋～赤坂橋
3. 整備内容
<ul style="list-style-type: none">・事業名：田名部川河川維持改良事業（桜づつみ）（県単事業）右岸 ：田名部川やすらぎの水辺空間整備事業（県単事業）左岸・整備年度：平成元年度～9年度（桜づつみ 平成元～4年度、やすらぎの水辺 平成6～9年度）・整備事業費：480,000千円（桜づつみ 200,000千円、やすらぎの水辺 280,000千円）・まちや地域の関係者との関わり： 周辺町内会長連名の陳情書により、護岸整備や公園化の要望があり、事業に着手した。完成後は、同町内会により田名部川桜づつみ愛護協議会が設立された。
4. 利活用及び維持管理
<ul style="list-style-type: none">・利活用 川沿いの散策やジョギングなどが日常的に利用されているほか、低水敷の広場においてボランティア団体による鮭の稚魚の放流が行われている。・維持管理 県とむつ市で維持管理協定を結び、施設の巡視点検、清掃美化、施設及び植栽の維持管理のほか、田名部川桜づつみ愛護協議会により、桜への薬剤散布、剪定、除草等を実施、また、水辺サポーターによる除草やごみ拾いなどの軽微な維持管理を行っている。
5. 特徴
<ul style="list-style-type: none">・市町村や地域における当該事業に関して行った工夫： 当該地区内には川に親しみやすいように一部の護岸を湾曲させ、低水敷に広場・階段を設けた。鮭の稚魚の放流などはこのスペースを利用して行われている。
6. その他
<ul style="list-style-type: none">・現況写真 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div>

<参考2>

市町村内で実施された同種の河川整備事業

1. 河川名
田名部川水系田名部川
2. 整備範囲
田名部川 下北橋～大瀬橋
3. 整備内容
<ul style="list-style-type: none">・事業名：田名部川地方特定河川等環境整備事業（県単事業）・整備年度：平成5年度～8年度・整備事業費：700,000千円・まちや地域の関係者との関わり： 釜臥山を正面から眺められる当該地区は、地域住民から日常的に散策やジョギングなどで利用されており、周辺の13町内会合同で毎年春と秋に除草やごみ拾いなどの軽微な維持管理が行われている。
4. 利活用及び維持管理
<ul style="list-style-type: none">・利活用 川沿いの散策やジョギングなど、日常的に利用されているほか、例年、付近の中学校による写生大会が行われている。・維持管理 県とむつ市で維持管理協定を結び、施設の巡視点検、清掃美化、施設及び植栽の維持管理のほか、水辺サポーターや周辺の13の町内会による除草やごみ拾いなどの軽微な維持管理を行っている。
5. 特徴
<ul style="list-style-type: none">・市町村や地域における当該事業に関して行った工夫： 当該地区の左岸は、散策やジョギングなどの際に緑を楽しめるように低木・高木を織り交ぜた植栽とし、体への負荷が軽減できるゴムチップ舗装を採用した。
6. その他
<ul style="list-style-type: none">・現況写真


<参考3>

関連するまちづくりに関する計画の概要

<p>1. 河川名</p> <p>田名部川水系田名部川</p>
<p>2. 河川区域</p> <p>田名部川 田名部まちなか地区</p>
<p>3. 河川概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業名：田名部まちなか再生事業 ・整備年度：平成27年度～平成37年度 ・整備事業費：検討中 ・まちや地域の関係者との関わり： <ul style="list-style-type: none"> むつ市、商工会議所、民生委員、青年会議所、NPO法人、地区自治会等による田名部まちなか再生協議会を設立し当該事業計画に関する意見交換及び情報共有を行っている。
<p>4. 河川に関連する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田名部川へ流入する明神川の水質浄化を促進するため、田名部まちなか協議会による明神川通信を発行し、付近住民への意識改善を呼びかけている。
<p>5. 進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田名部まちなか地区の活性化を図るため、商工会議所を事務局とした中心市街地活性化協議会を平成28年8月23日に設立した。現在、同協議会において、今後の事業内容について検討を行っている。
<p>6. その他</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="156 1189 576 1473"> </div> <div data-bbox="355 1503 932 2011"> </div> <div data-bbox="1002 1272 1410 1868"> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-right: 100px;">田名部まちなか地区</p>